リレートーク

紹介者

中村 紀子 氏
ポピンズコーポレーション
代表取締役CEO

川鍋 一朗 氏
日本交通
取締役社長

#161

バッカーズ寺子屋という 日本の将来に対する私なりのアクション

結婚1年、まだ子どものいない自分でも、日本の将来は気がかりだ。政治に望みを捨てきれない、経済にも秘かに期待したい。でもその前に、一経営者として、まず自分ができることをしようと考えた。その一つの答えが、「バッカーズ寺子屋」という私塾の企業訪問を受け入れることだった。

とある4月の土曜日の早朝、当社の千住営業所に、20数名の小・中学生がやってきた。1人ずつ乗務員と組み、不安そうな顔で助手席に乗って朝の町へ出て行った。3時間後、1台、また1台と帰ってくるころには「無線取ったね！」「東京スカイツリー見てきちゃった！」と大はしゃぎ。最後に「社長の私は1円も稼がなくても、皆さんが稼いできてくれました。会社は社長だけでは何もできません。社員の力を合わせることが大事です！」と締めくくった。後日、感想文を読んで驚いた。「日本交通で僕が学んだことは三つあります。一つ目は…」自分の意見があり、明らかにアウトプットの訓練を受けている！

「バッカーズ寺子屋」の特長は、このアウトプットにあると思う。学校も年齢もバラバラの子どもたちが、1年間、月2回原宿のセコムホールを基地として素読（そどく）やスピーチ、リポートやマナーなどの「型」を学ぶ。年10回程度行われる企業訪問や年3回の合宿では、インプットと同時に毎回、必ず自分の意見のアウトプットが求められる。その圧倒的なインプット・アウトプット作業を通して、その子どもたちは、幕末の志士たちのように志を持った人間に育っていく！卒業後、「中学校の生徒会長になりました」「市の作文コンクールで賞を取りました」といった成果が出るのも当然なのである。

最近は毎年、社員の子弟を参加させている。学校の行事と重なることが最大の悩みのようだが、相談すればある程度は自由が利く。今まで子どもを参加させた4名の社員は「日本交通に入社して一番うれしかった出来事」と言う（汗）。

日本の復活は、まず教育から。10～15歳のご子弟、お孫さんのいらっしゃる方は、ぜひ「バッカーズ寺子屋」という一つのアクションを取られてはいかがでしょうか。

次回は　渋澤 健 氏（シブサワ・アンド・カンパニー　代表取締役）にご登場いただきます。